

授業科目(ナンバリング)	教育相談(カウンセリングを含む。) (QA301)	担当教員 担当形態			柳 智盛 単独				
教員免許状取得 のための選択の別	必修	単位数	2単位	開講 年次	3年	展開 方法	講義	開設 時期	前期
科 目	教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目)…中・高等学校 教職に関する科目(生徒指導及び教育相談に関する科目)…栄養教諭								
各科目に含める ことが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法								
授 業 の ね ら い									アクティブ ラーニング の 類 型
学校現場において、幼児児童生徒の自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、一人ひとりの個性の伸長や人格の成長を留意しながら教員として支援するため、カウンセリングの理論・技法などを修得する。また、近年とり上げられる諸問題(不登校、いじめ、自殺、非行、特別な支援を要する児童生徒など)に取り組み、幼児児童生徒の発達を踏まえ、個々の心理的特質や教育的課題を捉えた上で支援ができる教育者としての資質をより高めることを目標とする。									③⑤⑩
ホスピタリティを 構成する能力	学生の授業における到達目標						評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	カウンセリングの理論や技法を適切に理解し、教育相談の意義と課題について説明できる。						・最終レポート ・課題レポート	20% 10%	
情報収集、 分析力	児童生徒の相談にあたる際に必要とする心理学の基本的な理論・概念を理解し、心理的諸問題について調べ、それに対し指摘できる。						・最終レポート ・課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション 力	児童生徒からの相談に適切に対応するための、コミュニケーション力を身につけ、グループワークを通して表現することができる。						・グループワーク	10%	
協働・課題解決力	児童生徒に対する対応として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家との連携について自らの考えを述べるができる。						・最終レポート ・課題レポート	10% 10%	
多様性理解力	児童生徒の多様性を理解し、教師として具体的にどのように接していくのかなどを考える力を培うことができる。						・最終レポート ・課題レポート	10% 10%	
出 席							受験要件		
合 計							100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明									
<p>・最終レポートの成績を50%とし最終評価を行う。授業中の課題レポートは、適宜授業終了時の感想シートの内容を40%とし評価する。グループワークは、授業中に適宜行うグループワークへの参加度・発言などを10%とし評価する。</p> <p>・最終レポートは、設問に対してどの程度主体的かつ丁寧に自分の意見を述べるができるかを評価する。さらに、最終レポートを授業の最終回に発表し、他の受講生及び担当教員からのコメントに対する振り返りを求め、最終レポートの評価にも反映させる。</p>									
授 業 の 概 要									
<p>授業の進め方としては、基本的にはテキストに沿った板書による講義を中心とするが、適宜プリントを配布するなどして理解を促す。また、グループワークによるロールプレイやディスカッションなどもできるだけ多く取り入れ、参加型の学習を目指す。本授業では、教育相談にあたるための人間理解の理論、カウンセリングの技法について理解する。また、今日的問題の解決のための考え方や連携のあり方などについて理解を深める。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>									
教 科 書 ・ 参 考 書									
<p>教科書：石川正一郎ら編著：『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房</p> <p>参考書：授業の中で適宜紹介していくため準備は必要ないが、復習に役立てること。</p> <p>指定図書：石川正一郎ら編著：『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房</p>									
授業外における学修及び学生に期待すること									
<p>授業への積極的な姿勢を望む。近年、学校現場における教育相談は、生徒指導にとって非常に重要なテーマとなっている。その自覚を持ち、日々のニュースにも関心を持って「どうしたらいいのか」「何を気づいてあげられればいいのか」を考える時間を作るよう務めること。遅刻・授業中の私語等学習態度が悪い者には厳しく対処する。</p>									

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	教育相談とは	教育相談についての基本的役割や意義について理解する。	予習：「教育相談の役割や意義」のテキスト該当箇所を読む 復習：上記テーマの振り返り。
2	カウンセリングマインドと カウンセリングの技法	教師に望まれるカウンセリングマインドの理論とその目標や技法について理解する。	予習：「カウンセリングマインドと技法」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
3	さまざまな教育相談技法	教育相談で用いられる様々な技法について理解する。	予習：「教育相談の様々な技法」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
4	パーソナリティ	パーソナリティについての考え方と理解について学ぶ。	予習：「パーソナリティ」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
5	発達と教育相談	発達の諸相からみた教育相談のあり方について理解する。	予習：「発達と教育相談」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
6	障害児の理解と対応	視覚障害、身体障害などさまざまな障害について理解し、特に発達障害への理解と対応の基本について学ぶ。	予習：「障害児の理解と対応」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
7	こころの問題の種類と教育 相談	児童生徒にとって注意すべきこころの問題や精神疾患について理解し、教育相談における対応について学ぶ。	予習：「こころの問題の種類と教育相談」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
8	心理検査とその利用	スクールカウンセラーが行う心理検査の種類や検査について理解し、連携する際の留意点を学ぶ。	予習：「心理テストとその利用」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
9	教育相談と事例研究	教育相談の実践例を参考に、教育相談の理論をより深く理解する。	予習：「教育相談と事例研究」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
10	不登校と非行	不登校の定義や不登校児童生徒への対応、非行への理解と対応、専門機関との連携を学ぶ。	予習：「不登校と非行」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
11	学級崩壊といじめ	学級崩壊やいじめのメカニズム、定義や特徴についての理解と対応、専門機関との連携を学ぶ。	予習：「学級崩壊といじめ」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
12	保護者に対する援助	教育相談を通じた保護者への関わりにおける理解と対応について学ぶ。	予習：「保護者に対する支援」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
13	学校における教育相談	学校内でのさまざまな教育相談の計画の作成や校内体制のあり方について実践例を参考に理解する。	予習：「学校における教育相談」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
14	・教育相談関係機関との連携 ・教師のメンタルヘルス	・外部の教育相談関係機関の概要について学び、連携のあり方について理解する。 ・教師のメンタルヘルスのあり方について理解し、ストレスのコントロール方法について学ぶ。	予習：「関係機関との連携・協働」と「教師のメンタルヘルス」のテキスト該当箇所を読む。 復習：上記テーマの振り返り。
15	全体の振り返り	授業を通して理解した教育相談の理論と方法を用いて、各自が取り上げた児童生徒に関する諸問題についてレポートにまとめた上で、発表を行う。その発表に対するディスカッションを通して各自の考え方を振り返る。	予習：レポートの作成及び発表の準備をする。 復習：授業全体と発表の際の教員及び他受講生からのコメントを振り返る。